2024・令和６年共通テスト漢文解説（本試験）準拠『早覚え速答法』

※m4 は『早覚え』マニュアルの４ページ、181 は『早覚え』の 181 ページを示す。

［出典］于済『聯珠詩格』ほか

［書き下し文］※音読のためルビと送りがなの歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更。

【詩】

華清宮

長安より回望すれば繡(しゅう)堆(たい)を成す。山頂の千門次第に開く。一騎紅塵(こうじん)妃子(きし)笑う。人の是れ荔枝(れいし)の来たるを知る無し。

【資料】

Ⅰ『天宝遺事』に云う、「貴妃荔枝を嗜(たしな)む。当時涪州(ふうしゅう)貢を致すに馬逓(ばてい)を以てし、馳載(ちさい)すること七日七夜にして京に至る。人馬多く路(みち)に斃(たお)れ、百姓(ひゃくせい)之(これ)に苦しむと。」

Ⅱ『畳山詩話』に云う、「明皇(めいこう)遠物を致して以て婦人を悦(よろこ)ばしむ。人力を窮(きわ)め人命を絶つも、顧みざる所有りと。」

Ⅲ『遯斎閑覧』に云う、「杜牧の華清宮の詩尤(もっと)も人口に膾炙(かいしゃ)す。唐紀に拠(よ)れば、明皇十月を以て驪山(りざん)に幸(こう)し、春に至りて即ち宮に還(かえ)る。是れ未だ嘗(かつ)て六月には驪山に在らざるなり。然(しか)るに荔枝(れいし)は盛暑にして方(はじめ)て熟すと。」

Ⅳ『甘沢謡』に云う、「天宝十四年六月一日、貴妃誕辰、驪山に駕幸す。小部音声に命じて楽を長生殿に奏し、新曲を進めしむるも、未だ名あらず。たまたま南海荔枝(れいし)を献じ、因(よ)りて荔枝香と名づくと。」

［現代語訳］（　）内は訳者の補足。

【詩】

華清宮

長安から見ると（驪山は）綾絹を重ねたようだ。山頂の千門が次々と開く。（駆けてくる）一騎が紅い砂塵を巻き上げ、楊貴妃がそれを見て笑う。荔枝（れいし）が運ばれて来たとは誰も知らない。

【資料】

Ⅰ『天宝遺事』は記す。「楊貴妃は荔枝を好んだ。当時涪州（ふうしゅう）はみつぎものを運ぶのに公文書を運ぶ早馬を用い、急ぐこと七日七夜で京に着いた。多くの人馬は途中で倒れ、民衆はこれに苦しんだ。」

Ⅱ『畳山詩話』は記す。「玄宗は遠くの物を取り寄せて女性を喜ばせた。（それにより）人力を尽くし人命を奪ったが、顧みなかった。」

Ⅲ『遯斎閑覧』は記す。「杜牧の華清宮の詩は最も広く知られている。唐紀によれば、玄宗は十月に驪山（りざん）に行き、春になってすぐに宮殿に帰った。したがって六月には驪山にいない。一方、荔枝（れいし）は夏の盛りに熟す。」

Ⅳ『甘沢謡』は記す。「天宝十四年六月一日、楊貴妃は誕生日に皇帝の乗り物で驪山に行った。小部音声に命じて音楽を長生殿で新曲を演奏させたが、曲にはまだ名前がなかった。たまたま南海郡が荔枝（れいし）を献上したので、それにちなんで荔枝香と名づけた。」

筆者の主張をつかむ m4

ステップ1――最初の2行を読む

詩と資料Ⅰの最初の2行を読むと次のとおり。

長安より回望すれば(注2)驪山は綾絹のようだ。山頂の山門(注3)次々と開く。

貴妃荔枝(れいし)を嗜(たしな)む。涪州(ふうしゅう)貢を致すに(注9)公文書を運ぶ早馬を以てし、七日七夜にして京に至る。人馬多く路に斃(たお)れ、百姓これに苦しむ。

ステップ2——最後の3行を読む

詩の最後1行と資料Ⅳの最後2行を読むと次のとおり。

人の是(こ)れ荔枝(れいし)の来たるを知る無し。

小部音声に命じて楽を長生殿に奏し、新曲を進めしむるも、未だ名あらず。たまたま南海荔枝(れいし)を献じ、因荔枝香と名づく。

ステップ3——最後の設問の選択肢を見る

三つのステップで共通する言葉を探す

問6で作業すると

ステップ1　［門］［荔枝］［公文書］［早馬］
ステップ2　［荔枝］
選択肢①　［門］［荔枝］［公文書］［早馬］
選択肢②　［門］［荔枝］［不適切＝公文書でなく荔枝を運ぶ］［早馬］
選択肢③　［門］［荔枝］［早馬］
選択肢④　［荔枝］
選択肢⑤　［門］［荔枝］［早馬］

となる。正解候補は①②か。これで十分。これが大事。ここで

退却ルール[no6]　**三分以内に主張をつかむ作業をやめて最初にもどる**

を実行し最初から読んでいく。

問１〔３〕

漢詩と押韻 181 から詩は七言絶句で、押韻は、堆 tai 開 kai 来 rai。したがって正解は⑤。

問２(ア)〔漢〕

百姓(ひゃくせい)157 は「人民、人々」だから正解は①「民衆」。

問３〔限定〕〔使役〕

「のみ」と読む限定 94 の漢字がないので③が切れ、「しめ」と読む使役 10 がないので⑤が切れる。

直前行で「人…多くみちにたおれ」とあるので、「人力を窮め人命を絶つ」④が正解。

問２(イ)　「人口に膾炙(かいしゃ)す」の意味は④「広く知れわたっている」。

問２(ウ)〔熟〕

熟語による翻訳で正解つかめ！170 による。「因」で思い浮かぶ熟語は「原因」だろう。すると翻訳は「そのために」①が適当。

問４〔熟〕

「嗜」の熟語は「嗜好」だろう。すると「嗜＝好」となって次のとおり。

【資料】Ⅰ　貴妃荔枝を好む

【資料】Ⅱ　（注11）玄宗遠物を致して婦人（＝貴妃）をよろこばしむ。

したがって、「玄宗の命令で楊貴妃の好物…を運ぶ」④が正解。

問５

【資料】Ⅲでは「玄宗は十月に驪山に行き、翌年の春に戻っているので、六月には驪山にいないが、荔枝は夏に熟す。」したがって、驪山に荔枝を取り寄せたとする杜牧の漢詩は事実に反するので、正解は③④⑤。

【資料】Ⅳでは驪山で六月に荔枝が献上されているので六月に驪山にいることになり、正解は「【資料】Ⅲに反論」とした⑤。

問６

正解候補①②を検討すると、①は「事実無根の逸話」とし②は「事実かどうか不明」とする。問５での考察により、【資料】Ⅲでは六月に驪山にいない、【資料】Ⅳでは六月に驪山にいる、となって真偽不明である。したがって、②が正解。

以上